

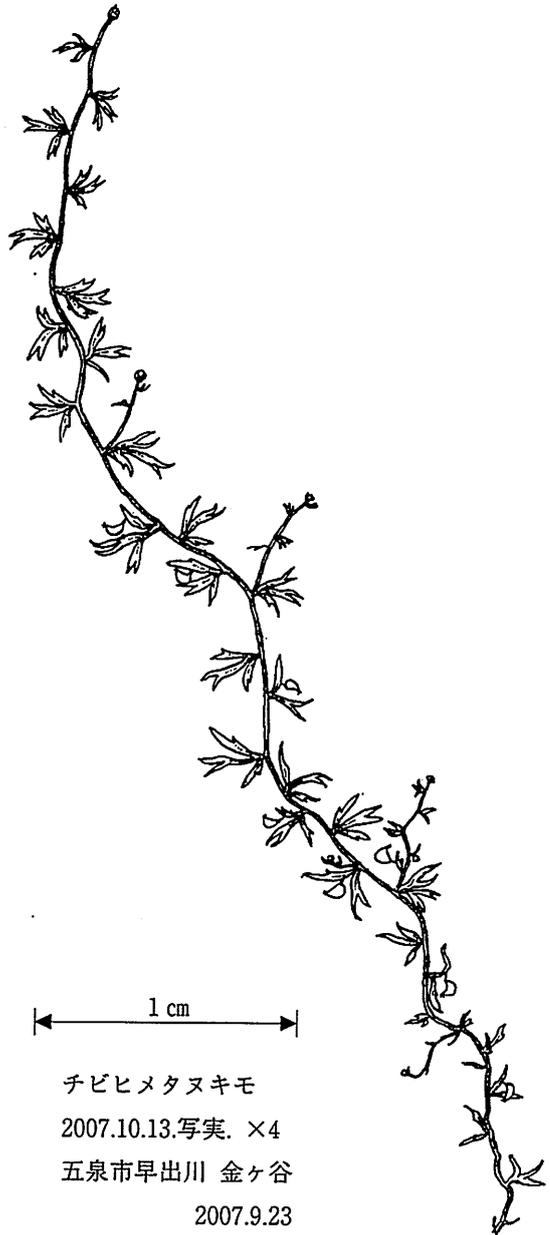
チビヒメタヌキモの生育地

坪谷 富男

新潟県五泉市早出溪谷を囲む周辺の山は、安山岩の隆起で表土は薄く、溪谷の両岸は湧水のしみ出る急傾斜の岩肌が点在する。

源流近くの流域では、日本平山（1081m）等古い地層の地史的な関連もあって、海拔の低い谷間（210m）でも寒地性植物・ムシトリスミレ、キンコウカ、イワショウブ、コアニチドリ等が残存し、県内稀産のヒメミヤマカラマツが点在する。その中で急傾斜地の湿岩が、チビヒメタヌキモの生育適地である。植物体は、長さ6cm位に成長。3深裂の葉が互生し、横幅4mm前後、葉の先端はV字形に分れて先は尖る。補虫袋は上方の裂片葉内側に付く。

植物体は繊細で扁平であって、着生根は持たず、吸引力で岩肌に付着。葉腋から繁殖枝を出して、晩秋には岩肌に溶け込んだ色合いに黄葉して、枝先に小さいながらもふっくらとした緑色の珠芽(越冬芽)が作られている。



[参考]

チビヒメタヌキモに関する文献

Utricularia minor L. form. *terrestris* Gück

Gück, Biol. - morph. Untersuch. Wass. Sumpfl. 2:47, t.2, f.20a (1906) [Komiya (1980) から引用]

Katagiri (片桐義昭) in J. Insect. Pl. Soc. (食虫植物研究会) 80:2,7, f.3 (1977) [ナガレヒメタヌキモで記録]

Komiya, Sadashi, and Chiaki Shibata "Distribution of the Lentibulariaceae in Japan" in Bull. of Nippon Dental Univ., General Education (日本歯科大学紀要) 9:191-192 (1980)

柴田千晶・小宮定志 日本歯科大学生物学教室 食虫植物腊葉標本目録 日本歯科大学紀要 第14号:193 (1985)

石高和弘・久原泰雅 新潟県に自生する水生タヌキモ類の分布 (その1) 新津植物資料室年報 2005:35, f36 (2007)